

こんにちは。

本日は“シナプス”をお開き下さりありがとうございます。

今年の冬は厳しく10年ぶりの寒波もありました。

ただ、花木のつぼみは、確実に訪れつつある春を教えてくれています。

今回は1月に実施しました研修を中心にお伝えいたします。

引き続き「高次脳機能障がいって？」の参考にしていただければ幸いです。

令和4年度 第2回「高次脳機能障がいWeb研修会」開催

講演

「脳損傷後の様々な後遺症と患者さんの気づき」

講師 京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科 言語聴覚専攻
教授 上田 敬太 先生

講演

「高次脳機能障がいの支援者養成テキストの動画配信による研修」

①講義：高次脳機能障害の診断・評価

②演習：障害特性の理解 診断・評価体験

講師 ①東北大学大学院医学系研究科 高次脳機能障害学
教授 鈴木 匡子 氏

②国立障害者リハビリテーションセンター
顧問 深津 玲子 氏

上田先生は、「気づき」とは比較的客観的に自らのことを感じ取る能力のことで、しかも感じ取ったことが、自らに関連あることだということ意識する能力であると話され、人の気づきのシステムや、障害に気づく条件について、事例をとおしてわかりやすくご講演くださいました。

講演2は、国立障害者リハビリテーションセンターが地域の支援者養成研修テキストとして開発した動画を配信しました。演習では、ベッドサイド等で簡単にできる評価として、順唱、3単語再生、セブンシリーズ、線分2等分テスト、2輪の花の絵模写、立方体透過図の模写、を体験しました。支援対象の方の行動等の疑問に関して、障がいの示唆を得ることができるかもしれません。

「気づき」は3階層（知的気づき、体験的気づき、予測的気づき）あります。また、「認知的障害回復の鍵は自分のところが自分のところの障害に気づくこと」ともいわれています。

支援者やご家族、及び周囲の方々は、多くの体験から、当事者の方が「気づき」を育めるよう支援できたらと思います。身体障害者相談センターでは、その観点から今年度、「学習」と「実習」でプログラムを構成し小集団で実施する通所教室「結」を開設いたしました。

この通所教室の令和5年度受講生については、当センターのホームページなどで募集を行うことにいたしますので、当事者の方、そのご家族の方及び支援者の方など、ご検討ください。

なお、センターでは、当事者ご家族・支援者の方々からの相談もお受けしています。

<後記>

次年度は「高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業」が始まって18年目となります。昨年度は改めて普及啓発についての課題が報告されました。一方で、近年では、診断基準の見直しや高次脳機能障害支援法（仮）成立へ向けた検討がなされております。

高次脳機能障がいに対する社会的認知度の向上を期待したいと思います。

（高次脳機能障がい支援コーディネーター 黒木和代）